



2026 年 1 月
法政大学教育開発支援機構
教育開発・学習支援センター

生成 AI ツールの利用に関する教員および学生対象調査の実施結果について

1 教員対象調査の概要および回答状況

(1) 目的

生成 AI ツールが教育現場において様々な側面で影響を与えつつあるなか、本学における教員の生成 AI ツールの利用状況やリテラシーに関する認識を把握し、授業における活用事例を共有することを目的とする。その上で、当センターとして、生成 AI ツールをどのように教育改善や学習支援に活かしていけるかを検討する。

(2) 調査期間

2025 年 9 月 25 日（木）～10 月 17 日（金）

(3) 調査対象

2025 年度授業担当教員

(4) 調査方法

法政大学アンケートシステム（Web）で実施

(5) 回答状況

407 人（回答者数）/2,964 人（対象者数） 回答率：13.7%

2 学生対象調査の概要および回答状況

(1) 目的

生成 AI ツールが手軽に利用できる状況になっているなか、学生の生成 AI ツールに対する考えやリテラシーに関する認識を把握することで、今後の教育改善や学習支援に活かすことを目的とする。また、生成 AI ツールに対する学生のリテラシー向上も目的とする。

(2) 調査期間

2025 年 9 月 25 日（木）～10 月 17 日（金）

(3) 調査対象

全学部生（通学課程）・大学院生

(4) 調査方法

法政大学アンケートシステム（Web）で実施

(5) 回答状況

556 人（回答者数）/32,179 人（対象者数） 回答率：1.7%



法政大学
HOSEI University

生成AIツールの利用に関する アンケート結果について

LFセンター データ活用推進ユニット

もくじ

1. 調査概要
2. 生成AIツールの利用状況とそれに対する考え
(本学の昨年度調査との比較)
3. 学生の生成AIツールの利用の仕方
(本学の昨年度調査との比較)
4. 生成AIツールに対するリテラシー
(全国調査との比較)
5. 教育場面での生成AIツールに対する考え
(全国調査との比較)
6. 教員の生成AIツールの利用における工夫
7. まとめ

1: 調査概要

調査概要①教員対象のアンケート

- 目的: 教員のAIツールの利用状況やリテラシーに関する認識を把握し、授業における活用事例を共有する
- 期間: 2025年9月25日～10月17日
[2024年度: 10月21日～11月10日]
- 対象: 2025年度授業担当教員
- 方法: 法政大学アンケートシステム(Web方式)
- 回答率: 13.7%(回答数/対象数=407/2964)
[2024年度: 11.7%(回答数/対象数=347/2961)]

調査概要②学生対象のアンケート

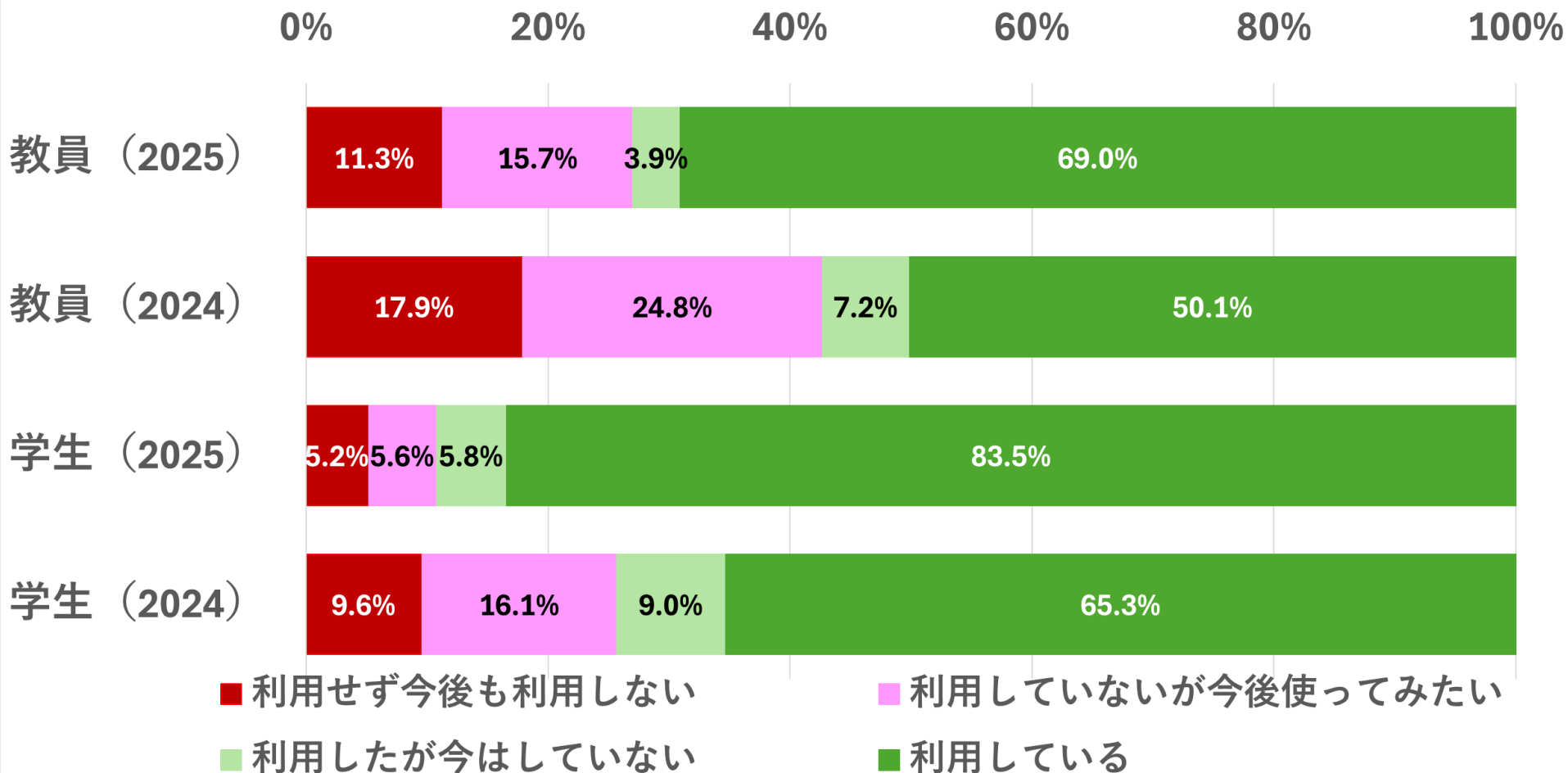
- 目的: 学生の生成 AI ツールに対する考えやリテラシーに関する認識を把握することで、今後の教育改善や学習支援に活かす
- 期間: 2025年9月25日～10月17日
[2024年度: 10月21日～11月10日]
- 対象: 全学部生(通学課程)・大学院生
- 方法: 法政大学アンケートシステム(Web方式)
- 回答率: 1.7%(回答数/対象数=556/32179)
[2024年度: 4.5%(回答数/対象数=1382/30885)]

(参考)

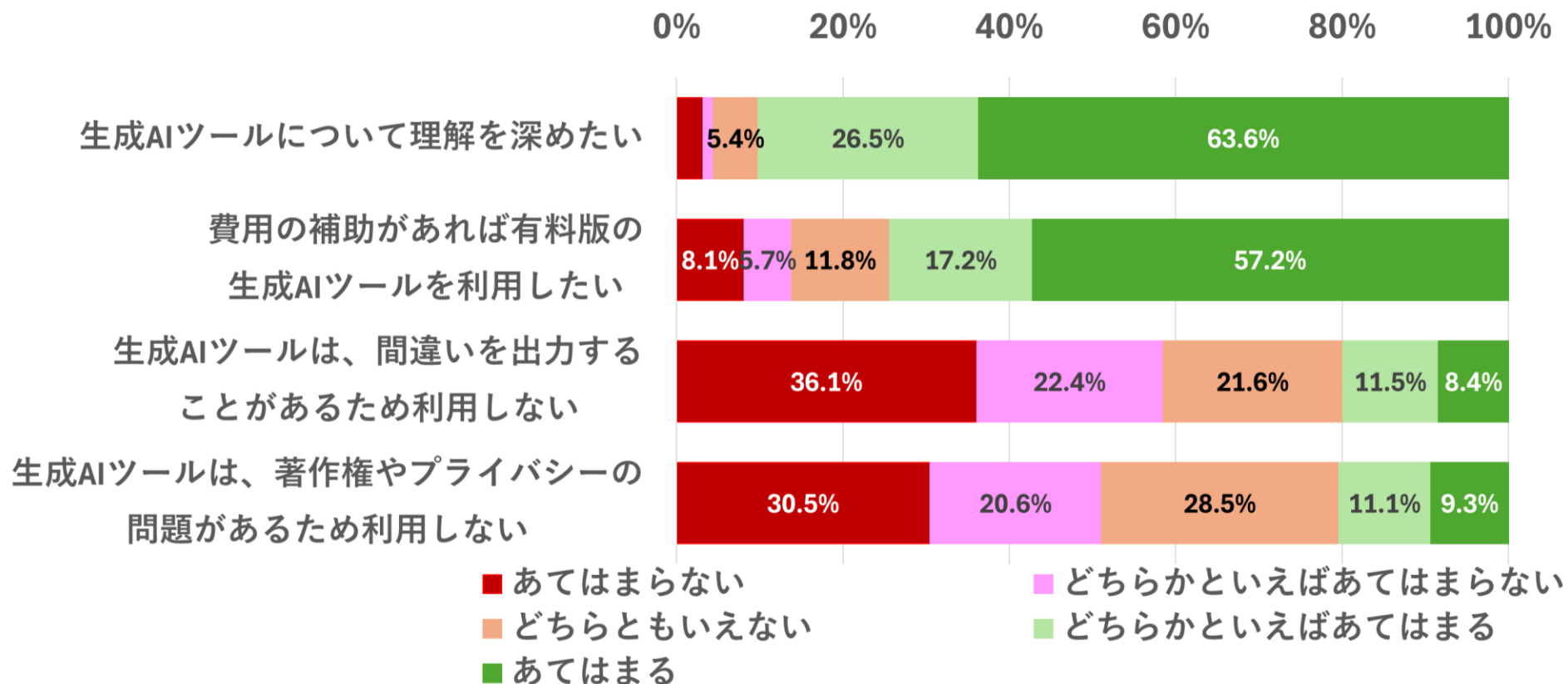
- 全国調査との比較では、下記調査結果から、教員および学生の回答結果のみを抜粋して掲載(区分が明確なものは、大学・大学院教員および大学生・大学院生のデータを利用)
 - 仙台大学AI教育研究チーム, 学生と教員を対象とした生成AIの教育利用状況と意識に関する全国調査, 2024.
 - https://www.sendaidaigaku.jp/dnt2/_sendaidaigaku/access/nic_img/1/files/20240716.pdf

2:生成AIツールの利用状況と それに対する考え (本学の昨年度調査との比較)

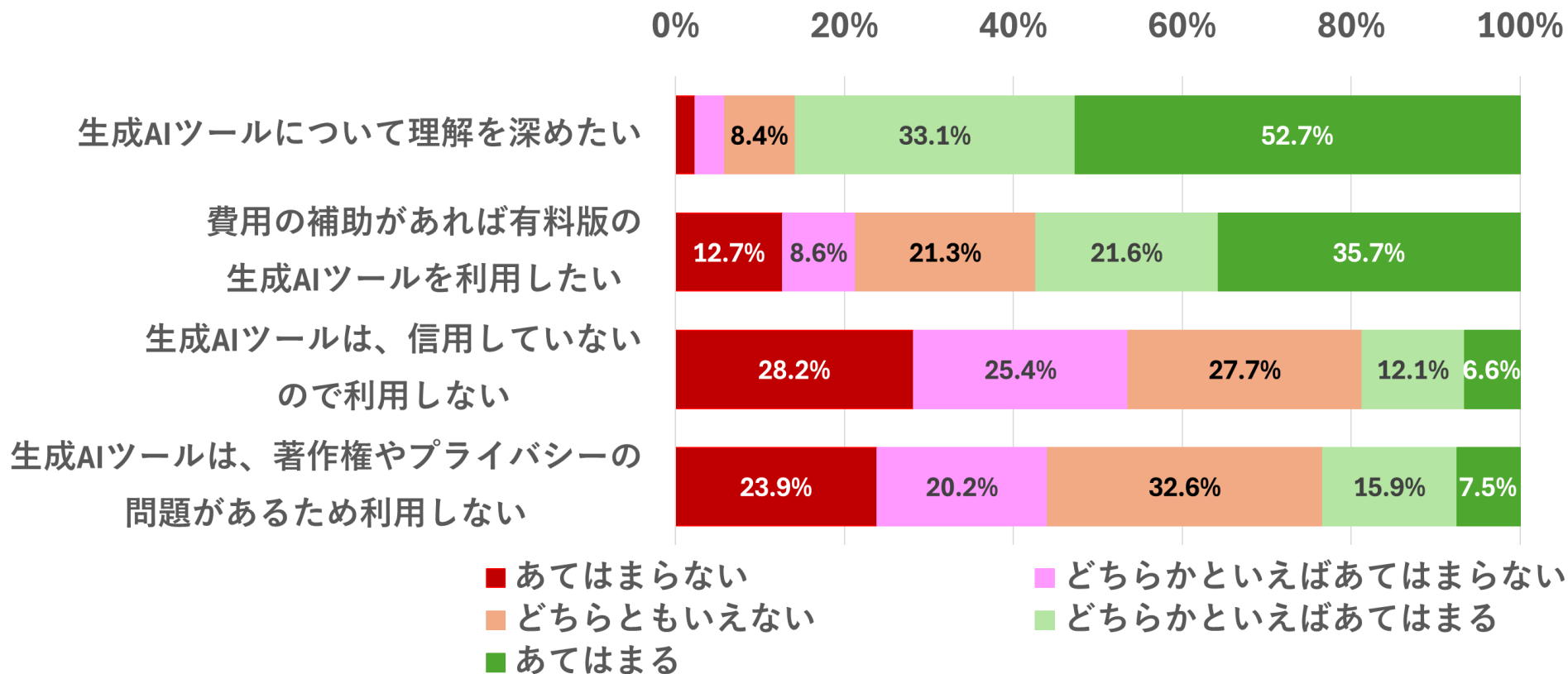
生成AIツールの利用状況(2024-2025)



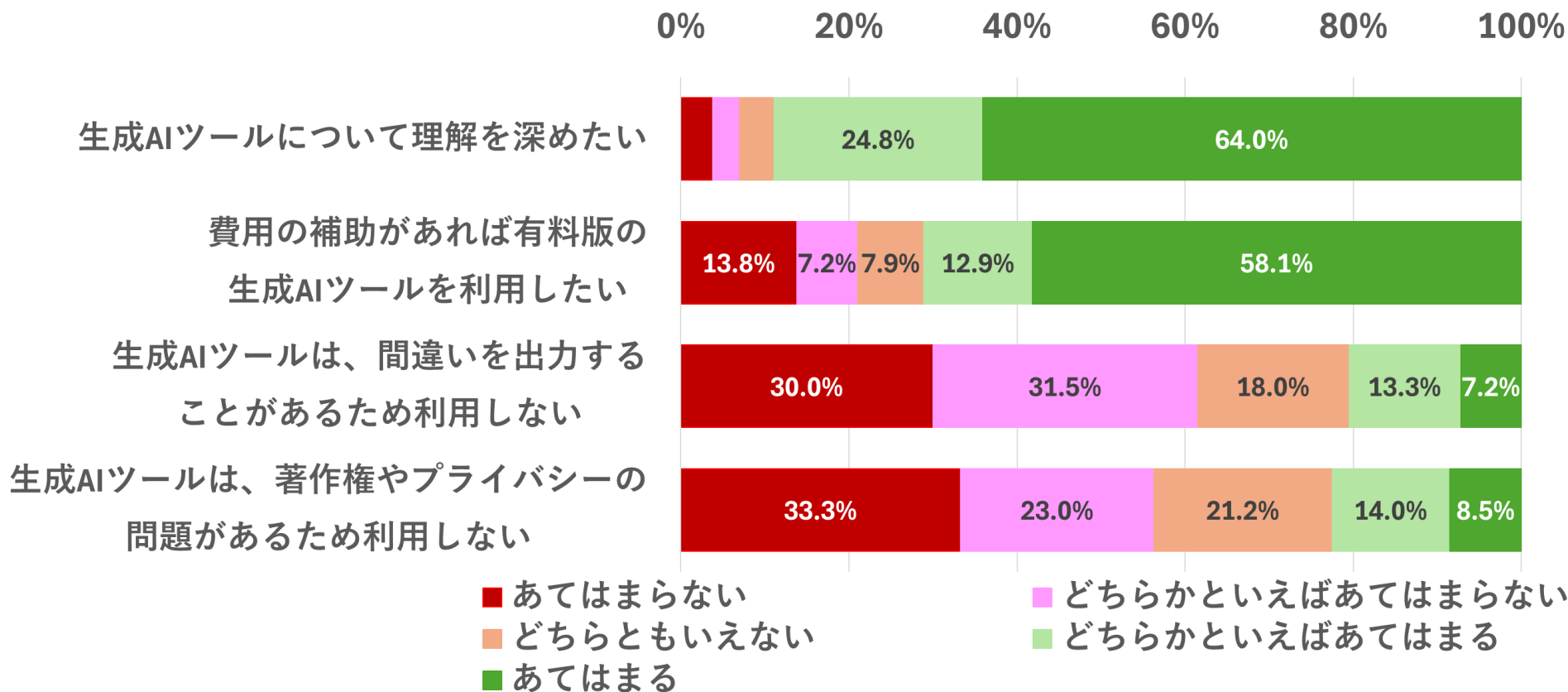
生成AIツールに対する考え1(教員:2025)



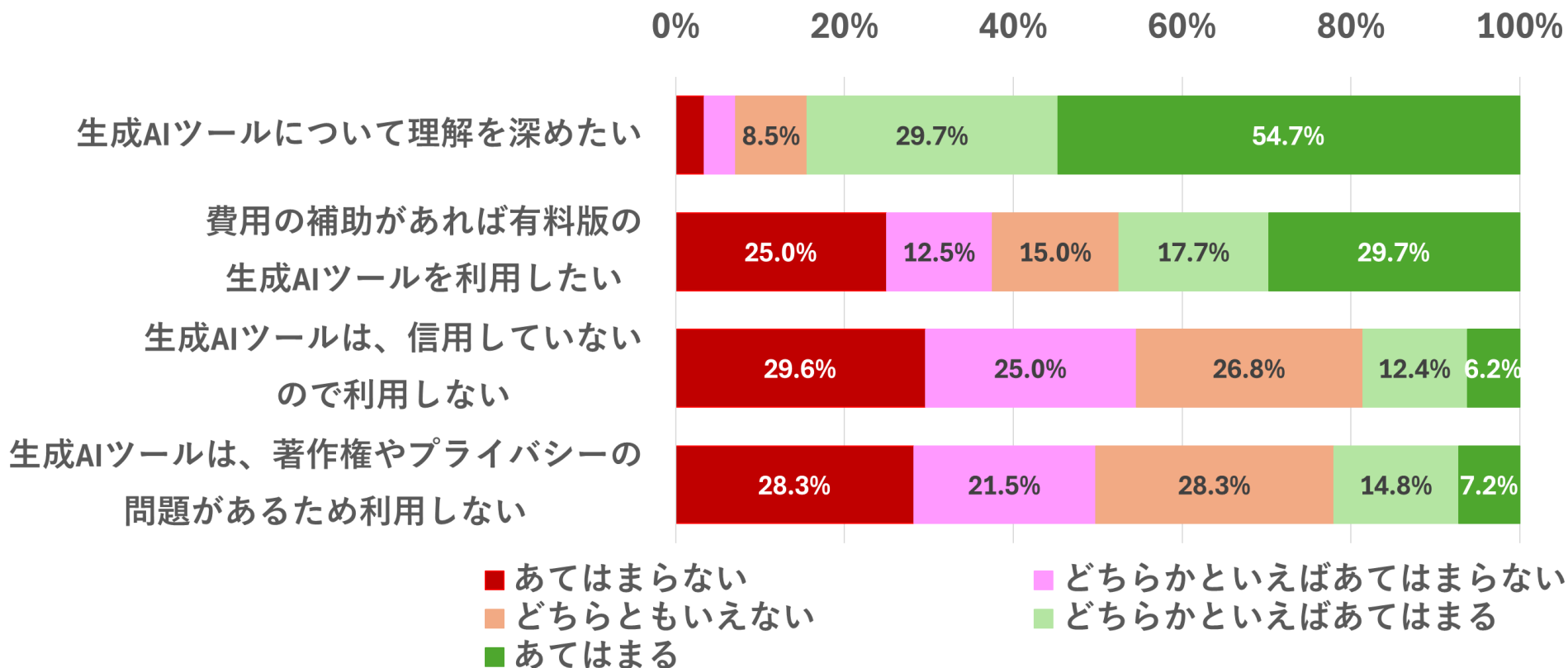
生成AIツールに対する考え1(教員:2024)



生成AIツールに対する考え1(学生:2025)



生成AIツールに対する考え1(学生:2024)

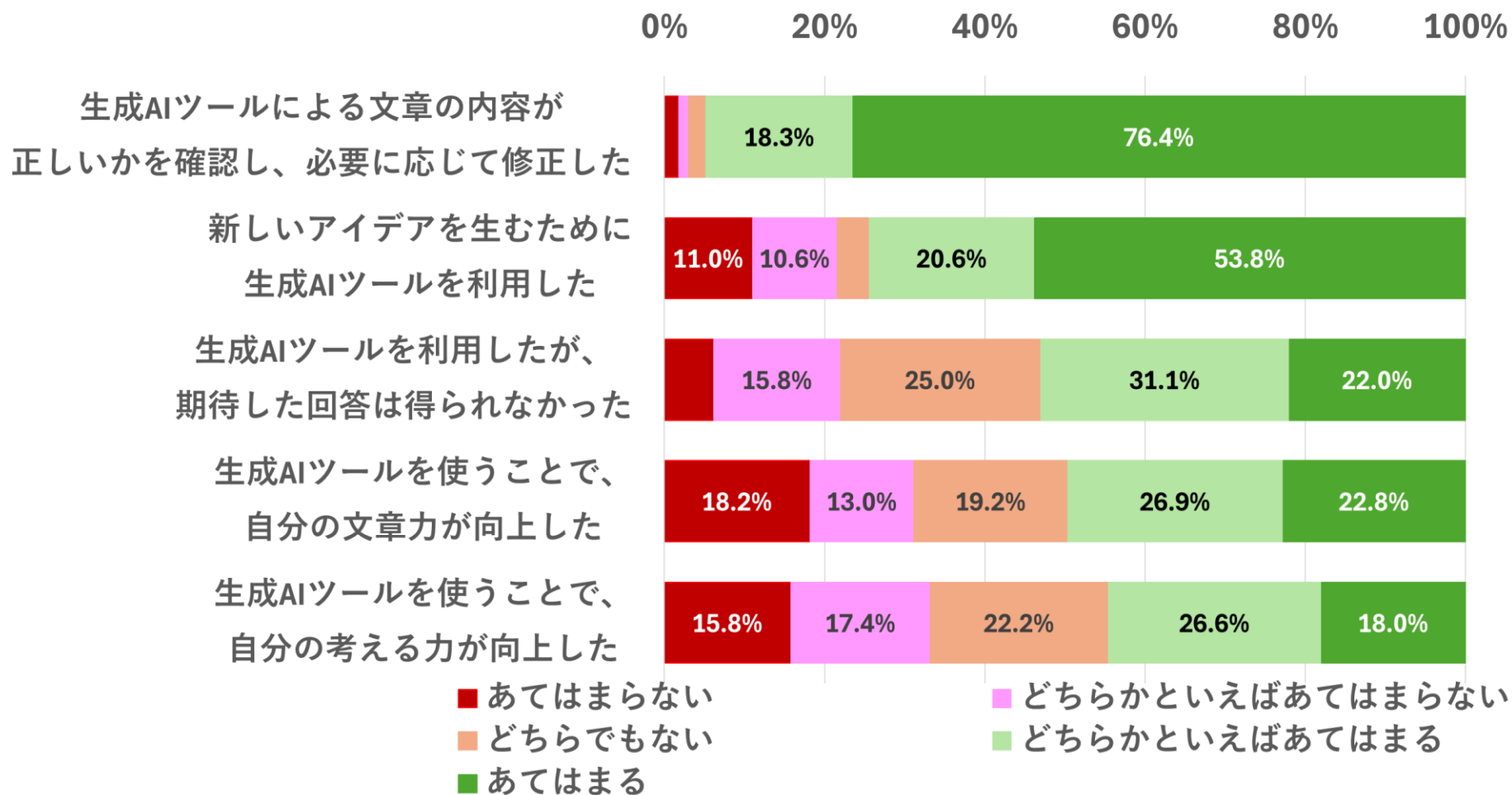


昨年度調査との比較①

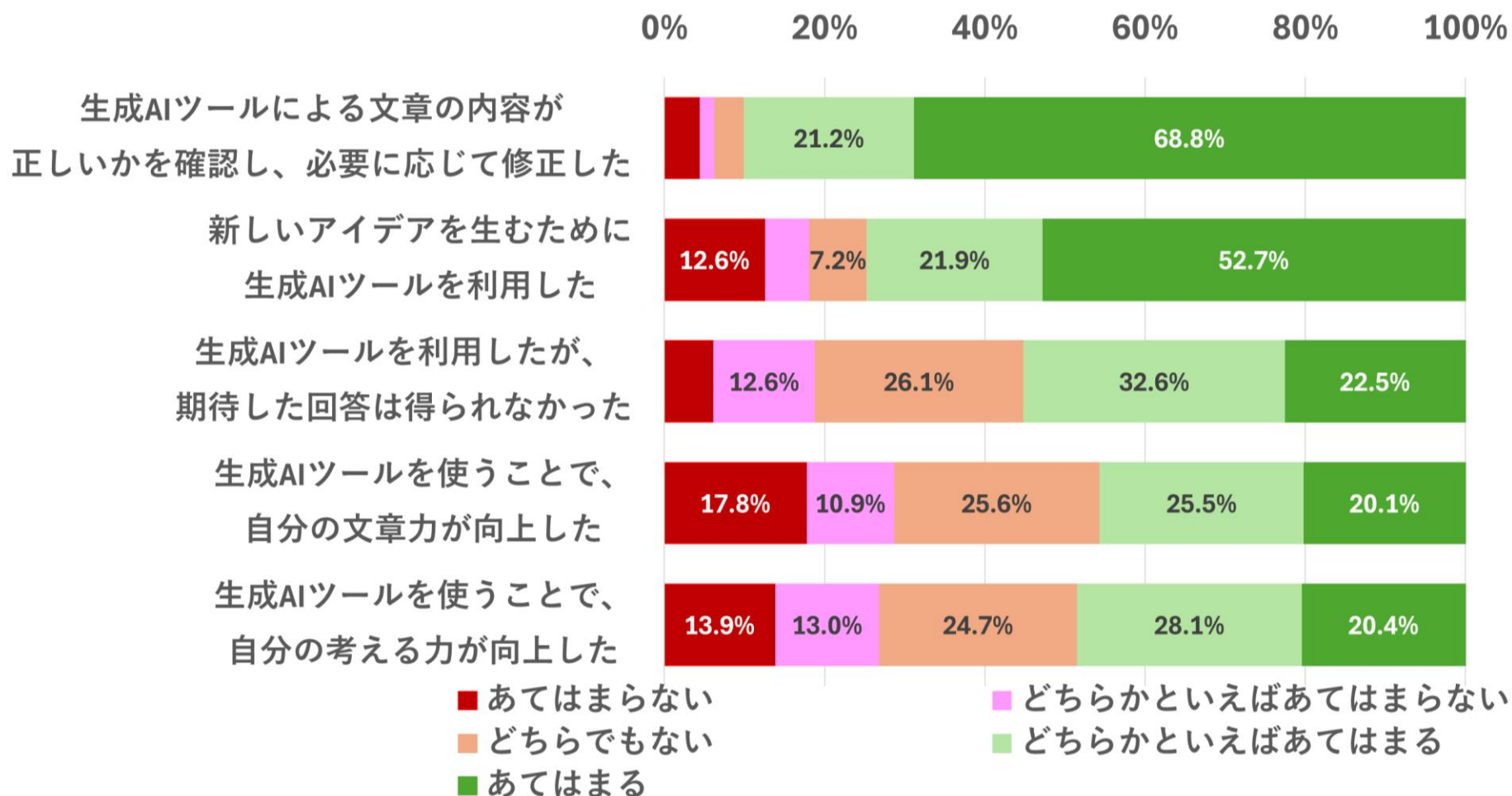
- 教員も学生も、生成AIツールを利用している人が増加（以下はいずれも減少）
 - 利用せず今後も利用しない
 - 利用していないが今後使ってみたい
 - 利用したが今はしていない
- 教員も学生も、生成AIツールに対する考えの項目からも、利用に対して前向きな姿勢がみられる
 - 利用に対して前向きな考えの項目では、肯定的な回答が増加
 - 利用に対して後ろ向きな考えの項目では、肯定的な回答が減少
 - 特に、「費用の補助があれば有料版の生成AIツールを利用したい」の項目において顕著

3:学生の生成AIツールの 利用の仕方 (本学の昨年度調査との比較)

生成AIツールの利用の仕方(学生:2025)



生成AIツールの利用の仕方(学生:2024)



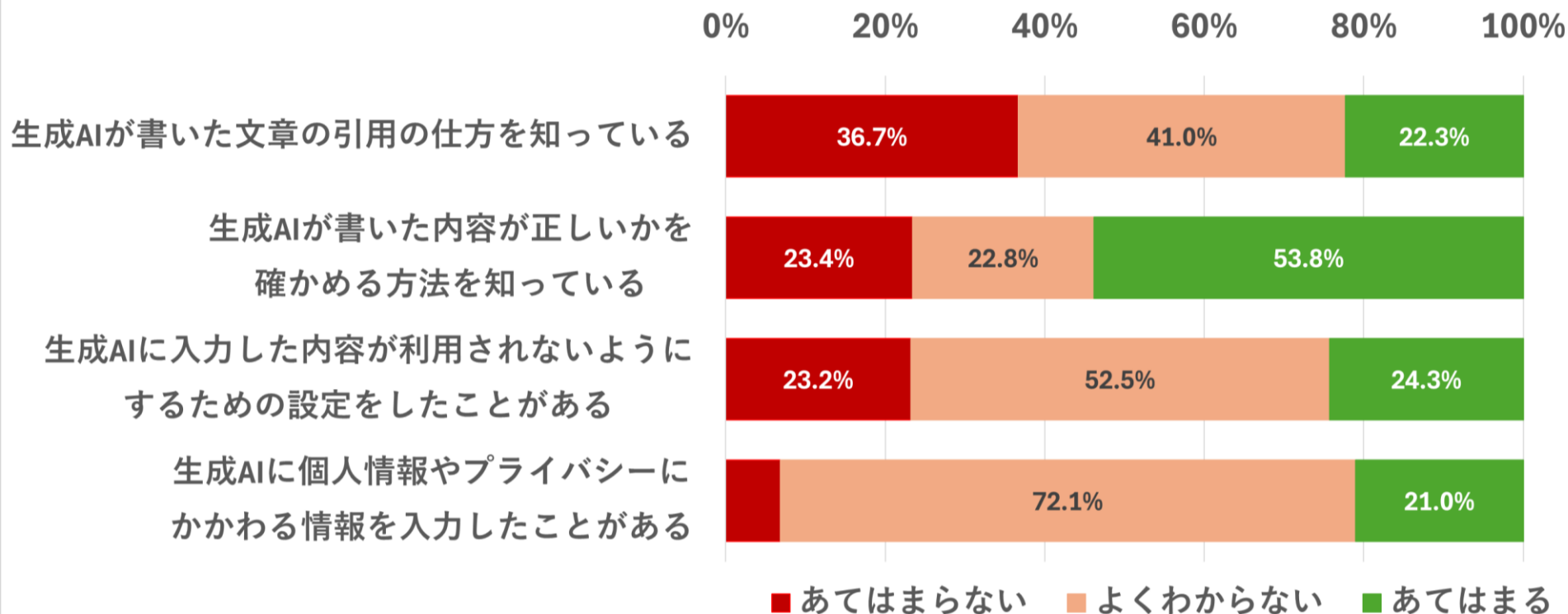
昨年度調査との比較②(学生のみ)

- 学生における生成AIツールの利用の仕方や利用に伴う恩恵として感じていることに関しては、昨年度と比較して大きな変化はない
- 以下の項目の回答から、生成AIツールの特性を把握しつつある様子がうかがえる
 - 「生成AIツールによる文章の内容が正しいかを確認し、必要に応じて修正した」の項目では、肯定的な回答が増加
 - 「生成AIツールを使うことで、自分の考える力が向上した」の項目では、否定的な回答が増加

4:生成AIツールに対するリテラシー (全国調査との比較)

生成AIツールに対するリテラシー1

(本学学生:2025)



生成AIツールに対するリテラシー1

(全国調査の大学生:2024)

0% 20% 40% 60% 80% 100%

生成AIが書いた文章の引用の仕方を知っている



生成AIが書いた内容が正しいかを
確かめる方法を知っている



生成AIに入力した内容が利用されないように
するための設定をしたことがある



生成AIに個人情報やプライバシーに
かかわる情報を入力したことがある



■ あてはまらない ■ よくわからない ■ あてはまる

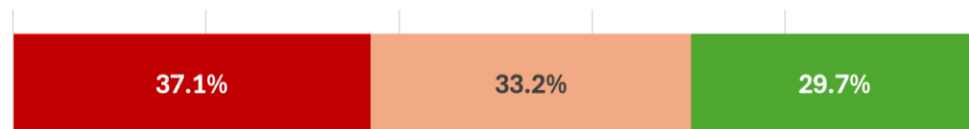
※上から2項目では、「よくわからない」の選択肢の用意なし

生成AIツールに対するリテラシー1

(本学教員: 2025)

0% 20% 40% 60% 80% 100%

生成AIが書いた文章の引用の仕方を知っている



生成AIが書いた内容が正しいかを
確かめる方法を知っている



生成AIに入力した内容が利用されないように
するための設定をしたことがある



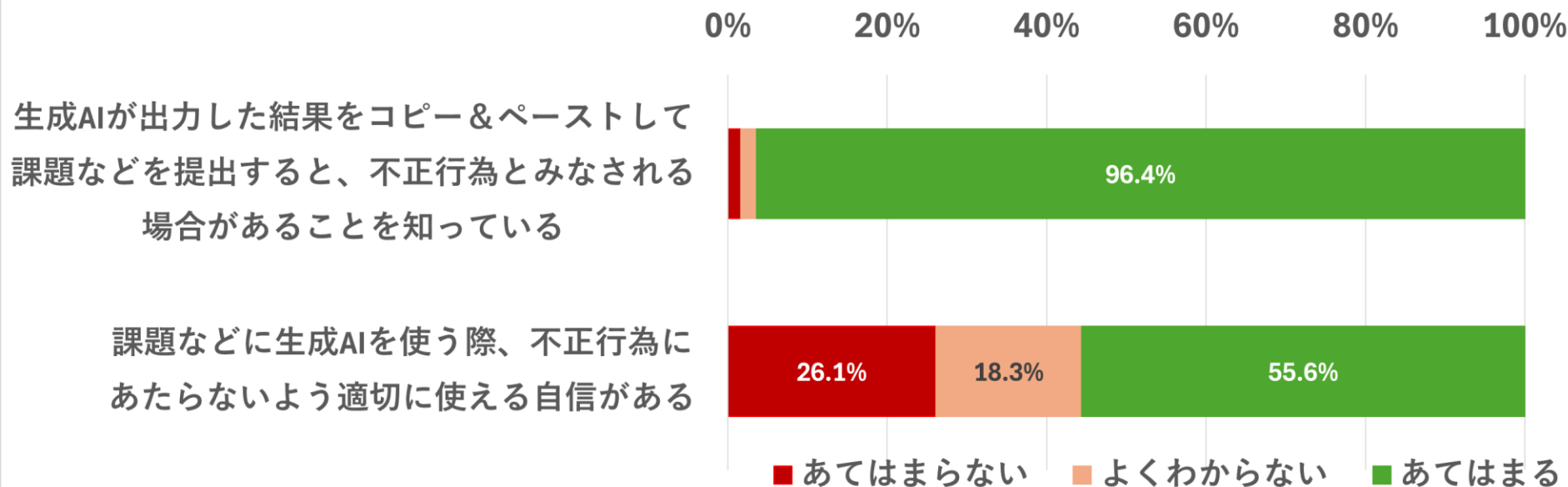
生成AIに個人情報やプライバシーに
かかわる情報を入力したことがある



■ あてはまらない ■ よくわからない ■ あてはまる

生成AIツールに対するリテラシー2

(本学学生:2025)

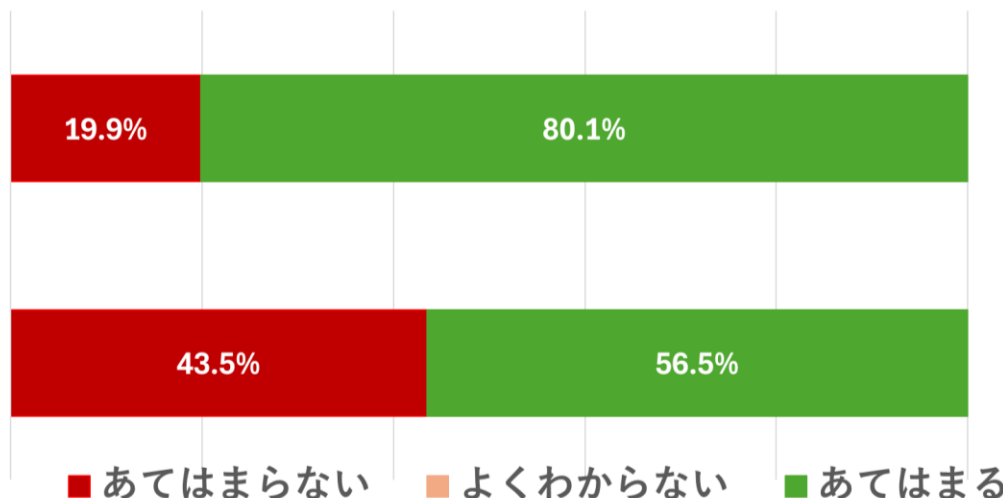


生成AIツールに対するリテラシー2

(全国調査の大学生:2024)

0% 20% 40% 60% 80% 100%

生成AIが出力した結果をコピー＆ペーストして
課題などを提出すると、不正行為とみなされる
場合があることを知っている

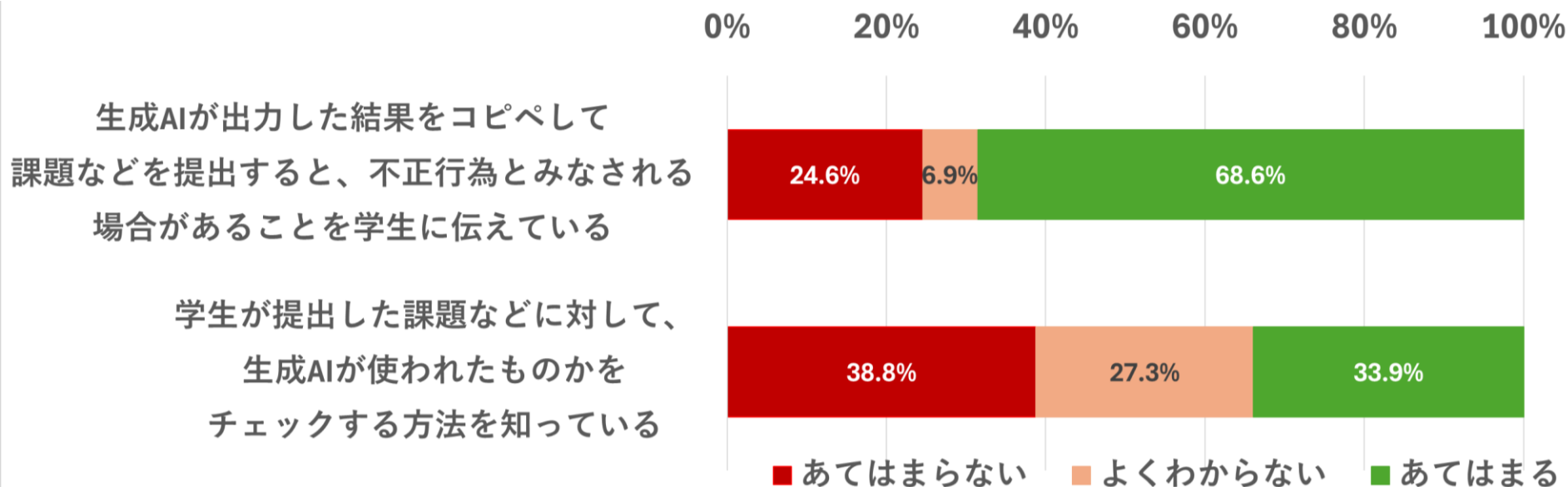


課題などに生成AIを使う際、不正行為に
あたらないよう適切に使える自信がある

※この2項目では、「よくわからない」の選択肢の用意なし

生成AIツールに対するリテラシー2

(本学教員:2025)



学生の生成AIツールに対するリテラシー

- 学生の生成AIツールに対するリテラシーに関する項目のうち、望ましい結果は次の通り
 - 「生成AIが出力した結果をコピー＆ペーストして課題などを提出すると、不正行為とみなされる場合があることを知っている」の項目に対して、96.4%の学生が「あてはまる」と回答
 - ファクトチェックやオプトアウト設定に関しては、肯定的な回答の割合が全国調査と比較して多い(※1)
 - 「課題などに生成AIを使う際、不正行為にあたらないよう適切に使える自信がある」の項目で、全国調査の結果よりも「あてはまる」の回答割合がわずかに少なかったものの、「あてはまらない」の回答が割合が少ない

学生の生成AIツールに対するリテラシー

- 学生の生成AIツールに対するリテラシーに関する項目のうち、注意を要する結果は次の通り
 - 「生成AIが書いた文章の引用の仕方を知っている」の項目に関して、「よくわからない」を含む否定的回答が全国調査と比較して多い(※2)
 - 「生成AIに個人情報やプライバシーにかかわる情報を入力したことがある」の項目に関して、「あてはまる」の回答が全国調査と比較して多く、特に「よくわからない」の回答が顕著に多い(※3)

教員の生成AIツールに対するリテラシー

- 教員の生成AIツールに対するリテラシーに関しては、次の通り
 - ※1:ファクトチェックやオプトアウト設定に関しては、肯定的な回答の割合が学生よりも教員の方が少ない
 - ※2:生成AIが書いた文章の引用の仕方に関しては、肯定的な回答が学生よりも多い一方、同時に、否定的な回答も多い
 - ※3:個人情報などの入力経験に関しては、否定的な回答が87.8%と高く、学生の回答とは顕著に異なる
 - 生成AIに関しての不正行為について学生に周知している教員は68.6%いるものの、提出された課題に生成AIが使われたかを確認できる教員は33.9%と少ない

5: 教育場面での生成AIツールに 対する考え (全国調査との比較)

生成AIツールに対する考え2

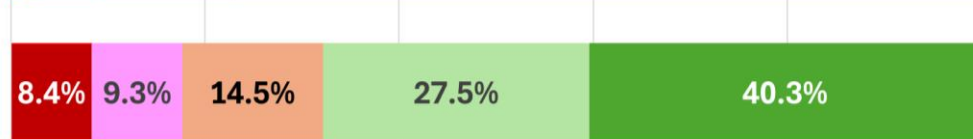
(本学教員:2025)

0% 20% 40% 60% 80% 100%

学生の生成AIの利用が、不正行為に該当しない
ように注意しなければならない



学生の教育・学習が、生成AIに依存して
しまうのではないかと不安である



生成AIが使われることで生じる教育的課題に
対処しなければならない



生成AIを前提とした新しい教育の実践の方法を
検討しなければならない



生成AIを使った不正行為をさせないようにする
ための取り組みが必要である



■ あてはまらない
■ どちらともいえない
■ あてはまる

■ どちらかといえばあてはまらない
■ どちらかといえばあてはまる

生成AIツールに対する考え2

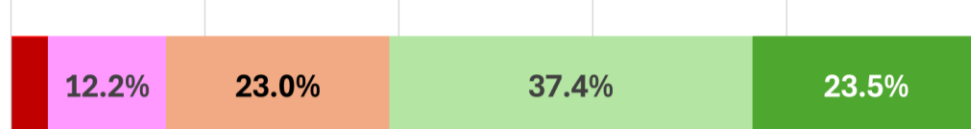
(全国調査の大学教員:2024)

0% 20% 40% 60% 80% 100%

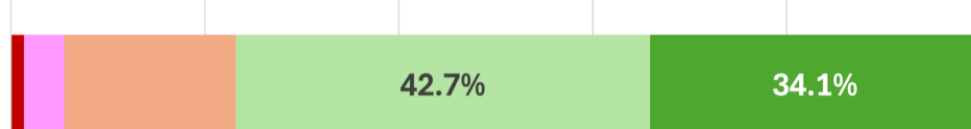
学生の生成AIの利用が、不正行為に該当しない
ように注意しなければならない



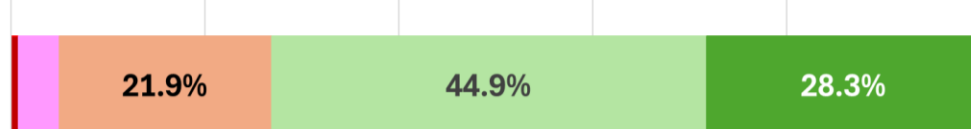
学生の教育・学習が、生成AIに依存して
しまうのではないかと不安である



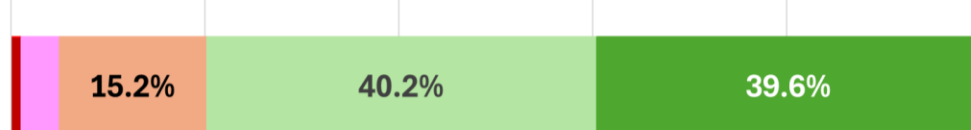
生成AIが使われることで生じる教育的課題に
対処しなければならない



生成AIを前提とした新しい教育の実践の方法を
検討しなければならない



生成AIを使った不正行為をさせないようにする
ための取り組みが必要である

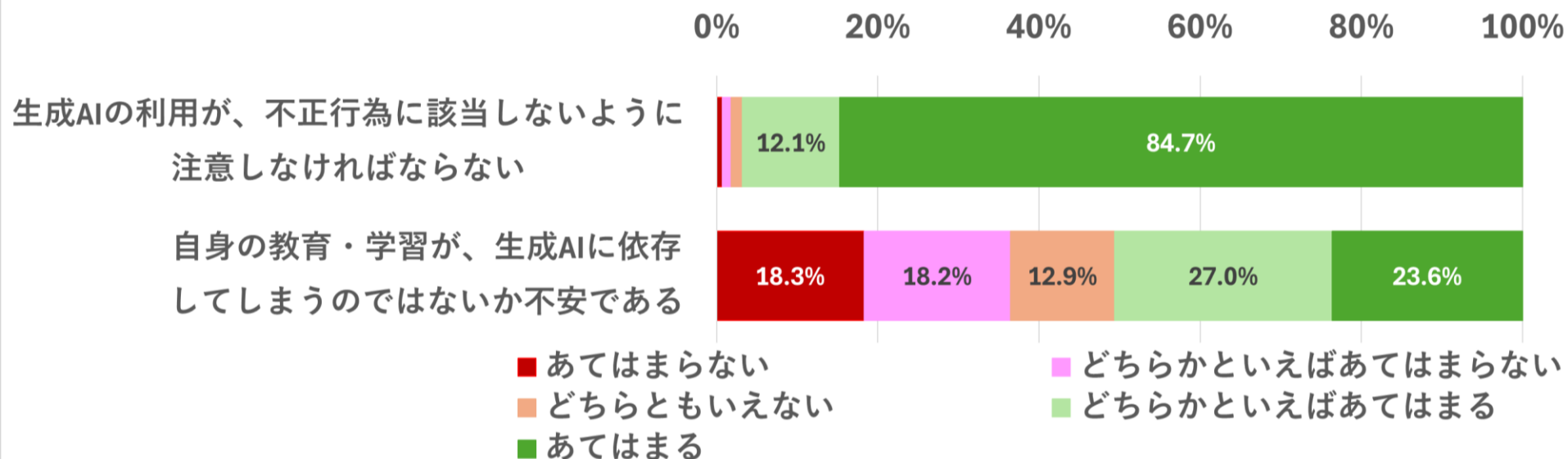


■ あてはまらない
■ どちらともいえない
■ あてはまる

■ どちらかといえばあてはまらない
■ どちらかといえばあてはまる

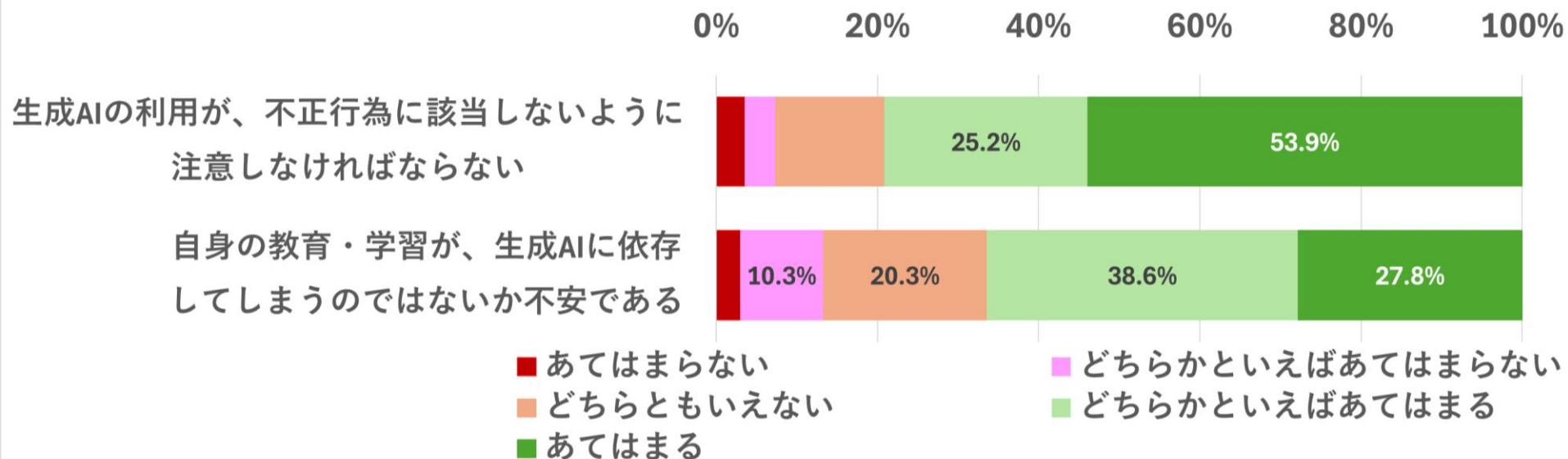
生成AIツールに対する考え2

(本学学生:2025)



生成AIツールに対する考え2

(全国調査の大学生:2024)



本学教員の生成AIツールに対する考え

- 生成AIツールに対する考えについての以下の全項目で、全国調査の結果と比較して、肯定的な回答の割合が高い
 - 学生の生成AIの利用が、不正行為に該当しないように注意しなければならない
 - 学生の教育・学習が、生成AIに依存してしまうのではないかと不安である
 - 生成AIが使われることで生じる教育的課題に対処しなければならない
 - 生成AIを前提とした新しい教育の実践の方法を検討しなければならない
 - 生成AIを使った不正行為をさせないようにするための取り組みが必要である

本学学生の生成AIツールに対する考え

- 本学学生は、比較的注意深く生成AIツールを利用しており、依存への不安も少ない
 - 「生成AIの利用が、不正行為に該当しないように注意しなければならない」という項目についての学生の回答は、全国調査の結果と比較して肯定的な回答の割合が顕著に多い
 - 「自身の教育・学習が、生成AIに依存してしまうのではないかと不安である」という項目についての学生の回答は、全国調査の結果と比較して肯定的な回答の割合が少なく、否定的な回答の割合が顕著に多い

6: 教員の生成AIツールの 利用における工夫

生成AIツールの教育活動での利用

- 使い方についてを説明する回答が多く、工夫点についての記述は少ない
- 使い方としては、以下の作成やブレインストーミング、翻訳、日本語や英語表現の確認などが多くあがった
 - 教材
 - 授業シラバス
 - 授業構成
 - 小テスト・定期試験
- 学生がレポート作成に生成AIを使用することを想定して回答事例を確認したり、その結果によって課題を決定したり、生成AIの使用が疑わしいレポートを同定するのに用いるという回答もみられた

教員が利用する場合の工夫①

- 安全性・倫理面での工夫
 - 個人情報や機密情報を入力しない
 - 生成AIの設定(学習利用の可否など)を確認して使う
 - 出典やエビデンスの提示をAIに求め、真偽を必ず自分で確認する
 - 生成AIの回答を鵜呑みにせず、誤りがあれば修正する
 - 複数のAIや複数の情報源でクロスチェックする
- プロンプトの工夫
 - 大きな質問から入り、徐々に詳細を詰める
 - 条件や背景を丁寧に書き、何度も出力を重ねて改善する

教員が利用する場合の工夫②

- AIの特性の理解と使い分け
 - 複数の生成AIを併用し、それぞれの得意分野に活用
 - 要約や校正、構成案の作成などのAIが得意なことにだけ利用
 - 事実確認や引用などが不得意なことを理解して利用
- 教育活動の質を高める工夫
 - 生成AIに教材案や問題案を作らせ、教材の質を向上させる
 - 生成AIの視点を借りて、学生視点での教材改善に活かす
 - 生成AIに課題を解かせて難易度や妥当性を確認
 - 採点基準(ルーブリック)を生成AIに読み込ませ、採点や評価の公平性を補強
 - 生成AIの誤りを把握し、授業で注意喚起に使う

学生に利用させる場合の工夫①

- 学習効果を高めるための工夫
 - 生成AIの回答と一次情報を比較させ、批判的思考を育てる
 - 生成AIの誤りを見つけて修正させる課題を出す
 - 答えを出す道具ではなく、思考の補助として使わせる
- 利用ルール・倫理教育の工夫
 - 生成AI利用のメリット・デメリットを授業で説明
 - 出典確認や著作権への配慮を指導
 - 生成AIの回答をそのまま提出しないよう指導し、加筆修正を必須にする
 - 「生成AIを使ったか」ではなく「どう使ったか」を重視させる
 - プロンプトや利用プロセス(履歴)を記録させる

学生に利用させる場合の工夫②

- 不正防止の工夫

- 生成AIに課題を解かせ、学生の不正利用を事前に把握
- 手書きレポートなど、コピペできない形式を導入
- 生成AI生成物と学生の提出物を比較し、不自然さを検知
- 生成AIでは答えられない課題(経験や実験結果など)にする

- 授業内での体験・理解促進の工夫

- 複数のAIを使わせ、特徴の違いを比較させる
- 生成AIの誤りを見つけるワークを行う
- 生成AIの特徴・限界・倫理を理解させる授業を行う
- プロンプトエンジニアリングを学ばせる

生成AIツールの利用に関するアンケートのまとめ

- 教員・学生ともに生成AIツールの利用が増加しており、前向きな姿勢が強まっている
- 学生：生成AIの特性の理解が進む一方、引用方法や個人情報保護など基礎リテラシーに課題あり
 - これらの注意喚起や体系的な教育が求められる
- 教員：ファクトチェックや不正検知などの実践的なスキルが不足
 - 引用やファクトチェック、オプトアウト設定などのAIをうまく活用するための講習が必要
- 教員：生成AI時代の教育的課題への意識が高い
 - 教育利用に関して、生成AIの特性と限界を理解したうえで、安全性と信頼性を確保しつつ、批判的に検証しながら活用するための工夫の報告もあった